

平成 26 年度 埼玉県木材青壮年連合会 会長指針

埼玉県木材青壮年連合会 会長 吉田明彦

木材業界を取り巻く環境は激変しつつあります。

2020 年東京オリンピックを控え、木材利用の機運は高まり、木材利用ポイントや地域ブランド化事業のような木材に対する国からの補助金も増えてきました。消費税増税も相まって、近年国産材の需要は一気に高まりました。

しかしながら供給する私たちが、供給不足を引き起こし、業界を混乱させてしまいました。これは現在の業界全体の供給量の限界であり、そしてまた後継従事者の人員不足が挙げられるのではないのでしょうか。これも現実として受け止めなければなりません。

今ここで木材業界の発展なくして、今後の発展はありません。私たち木材業界に身を置くものとしては、この状況を打破し、次世代の後継者に確実に引き継いでいかななくてはなりません。今、私たち業界全体でタッグを組んで、今後について真剣に考えなければなりません。そして、私たち若い世代が木材利用に関する PR を活性化させ、業界全体を引っ張っていかなければ、今後の業界の発展は望めないでしょう。

ご存知のように、木材を利用することにより地球温暖化を防ぎ、豊かな資源を守ります。そして山を育てることにより、自然災害からも身を守るというような効果があります。次世代に豊かな日本をつなぐため、私たちの力が今必要なのではないのでしょうか？

我々木青連は、業界のトップリーダーの集まりとして今後も活動していきます。相互啓発、自己研鑽、そしてお互いの情報交換の場所として積極的に活動していきますので、宜しくお願い致します。